

科目区分：教科又は教職に関する科目

授業科目名：一貫教育・連携教育概論

登録学生数：179名

「一貫教育・連携教育概論」授業報告

人文・書道 東 賢司

1 授業の概要

今年度で3年目になる科目である。3年生後期に設定されているが、3年生は新免許法に関わる初めての学生であり、枠組が変わっている。もともと「教科又は教職科目」に分類される科目であったが、本年度からは新免許法で新しく設定された「大学が独自に設定する科目」となっている。

学部生全員が受講をする必修科目であり、本年度も再履修生を含め、179名の受講があった。実施責任者は学部長、授業担当責任者がおり、実務は教務委員が担当する万全の体制が取られている。

大人数の講義であるために、本年度は遠隔授業を余儀なくされた。授業開始1月ほど前に「遠隔非同期型で実施」という連絡が学部長からあり、同期型で実施をしようと準備を進めていたが、実施方法を変更した。ただ、後期が始まって3年生には必修の教育実習がある学生がいたり、授業資料に工夫が必要な学生もいて、それらの対応を行うのは同期型では無理であり、非同期型が合理的であることが後になって理解できた。

私は、第2回の授業の「教科における異校種間での接続とカリキュラムマネジメント

(国語)」の授業を担当した。私は書写と書道の担当であり、国語と書道という違う教科を跨いでいる。教育課程や学習内容でもそれぞれの目的が違うこともあって矛盾することもしばしばある。書写や書道を受け持つ教員はこれらのことを当たり前のよう経験するために、小学校書写と中学校書写、中学校書写と高校書道という接続には日常的に注意をする習慣が身につけている。しかし、受講生はこれらの教員とは異なるため、学校現場に出て右往左往しないよう、接続部分の何に

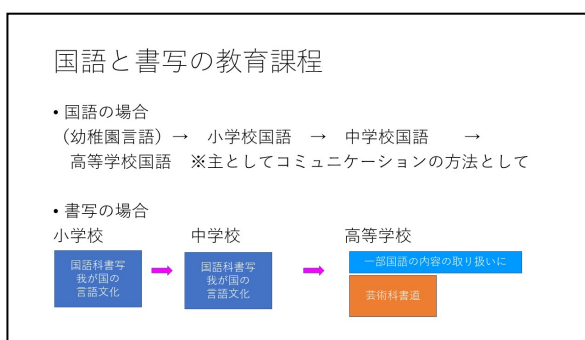
(どこに)注意せねばならないのかを具体的に示す動画を作ることにした。

授業は、四つのテーマで構成したが、いかにそれを簡単にまとめる。

2. 授業の実際

①国語と書写の繋がり

小学校と中学校では国語という教科の中に「書写」という学習内容があり、主として「文字を正しく整えて書くこと」ことを学ぶ。高校になると、芸術科書道という教科があり、「文字の美しさ」を学ぶ。書写も書道も毛筆を使うというイメージがあること、本来人は文字を綺麗に書きたいという願望があること等が影響して、書写も書道も同じと捉えている人が多いが、実際は内容は異なっている。なお、新しい学習指導要領では、高校の国語の教科に書写に関する内容が追加されている。今後、どのように取り扱われるのか注目されることも伝えた。



②指導要領の構成と内容

書写に関する指導要領の記載は、毛筆学習の時間が定められているため、その部分が注目されがちであるが、実際の内容は、毛筆よりも硬筆の学習に重点が置かれている。中学校2年生で書かれる「読みやすく速く書く」というのが最終形に近い目標であるが、教科書の手本を写すというよりも、場面に応じて適当な文字を書くということが求められていることを伝えた。高校に関しては、授業とは

趣旨が異なるので省略した。

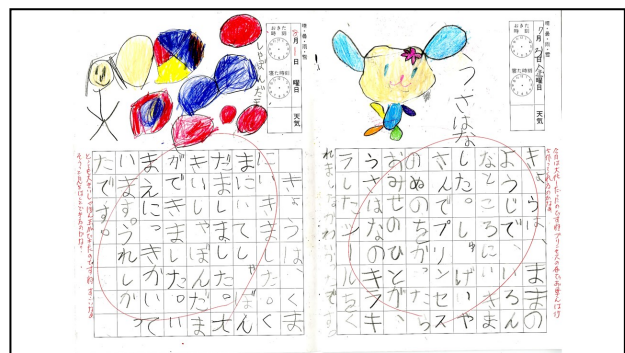
小学校・中学校の指導要領の内容(書写)				
	準備	技法	まとめ方	言語文化
小低学年	姿勢や筆記具の持ち方	・点面の書き方や文字の形 ・点画相互の接し方や交わり方、長短や方向		
小中学年		・文字の「 組立方 」 ・形の「 整え方 」 ・点面の書き方と筆圧(毛筆)	・漢字や仮名の大きさ、 配列	
小高学年	目的に応じた筆記具の選択	・書く長さ ・穂先の動きと点面のつながり(毛筆)	・用紙全体との関係、文字の大きさや 配列	
中1年		・字形 ・行書の基礎的な書き方	・文字の大きさ、 配列	
中2年	・目的や必要に応じて、書体を選ぶ	・漢字の行書とそれに 調和した 仮名の書き方を理解する	・読みやすく速く書く	
中3年				・ 文字文化の豊かさに 触れる



3才

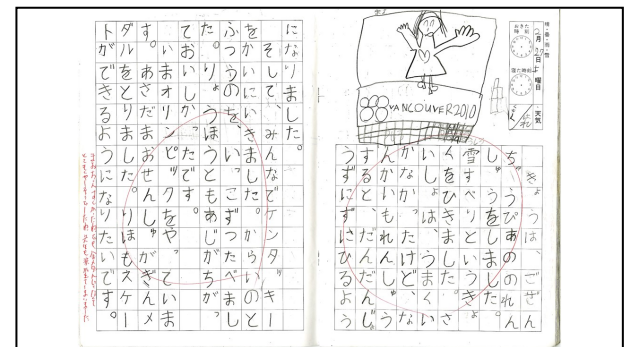
③我が国の言語文化について

前回の指導要領で始めて記載された「伝統的言語文化と国語の特質に関する事項」は、今回「我が国の言語文化」に改められている。これは従来の文字を書く学習が書写であることから新しく作られた内容であると言ってよい。指導要領上では「関わる」「親しむ」という文言から「担い手」という文言まであり、取り扱う教材は難しくなる。実際に教科書等をみても、それぞれの出版社が最も腐心している部分であり、今後も注意する必要があることを伝えた。



4才

指導要領	目標に記される「言語文化」
小学校	我が国の言語文化に 親しんだり理解したり することができるようにする
中学校	我が国の言語文化に 関わり 、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。
中1年	我が国の言語文化を 大切に する
中2年	我が国の言語文化に 親しみ理解 する
中3年	我が国の言語文化に 関わる
高等学校	我が国の言語文化の 担い手としての自覚 をもち
現代の国語	我が国の言語文化の 担い手としての自覚 をもち
言語文化	我が国の言語文化に対する 理解を深める ことができるようにする



5才

④人が文字を獲得する実際の様子

子どもが文字を獲得する時期は、小学校入学前である。鉛筆を持ち始めた当時は、自分の意思の通りに線を書くことも難しいが、それが徐々に正確になっていく。

このことを可視化するために、絵日記を用いて、実際に子どもが文字を獲得する様子を示してみた。絵日記は、多くの幼稚園などで取り入れられている学習教材だが、これらを数年単位で見ると、様々な変化が起きていることをつかむことができる。例えば平仮名の練習には、平仮名を書くのではなく「○」「△」「□」などの記号を練習する。これらの実際を資料を用いて説明した。

3. 学生の感想

- ・自然にできるようになることは難しいが、児童が自主的に動けるよう、やる気が持てる声掛けがしたいと思った。
- ・文字を書く時間というのは、現代においては大変貴重な時間といえ、書写の教育課程は正しい書き方を学べる重要な機会である。
- ・今回の講義では新たな知見も得られた。それは書写の学習指導要領の内容と習得させるべき技能の指導方法である。
- ・初等国語では、数回書写についての講義を受けましたが、それとは異なり書写の単元の教育法を教えていただいたので、とても新鮮でした。